

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の―線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 兵庫ケンチョウに向かう。
- 2 ザツカを買い集める。
- 3 野球観戦にムチュウになる。
- 4 ヨキせぬ事が起こる。
- 5 屋外に布団を干す。
- 6 画集を出版する。
- 7 文武両道を目指す。
- 8 王座に君臨する。

問二 次の慣用語の「」内にあてはまる言葉をあとのア～クから一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 化けの皮が「」
- 2 頭角を「」
- 3 日の目を「」
- 4 お茶を「」
- 5 腕うでによりを「」

- | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|----------------------|---|----------------------|
| ア | 現す | イ | 見る | ウ | 捕 <small>と</small> る | エ | 呑 <small>の</small> む |
| オ | さす | カ | にごす | キ | かける | ク | はがれる |

二

次の I と II の文章を読んで、あとの間に答えなさい。

I

新たに森をつくる場合、場所によつて形、大きさ、つくり方はいろいろ考えられます。 **X** をいえば、私たちがよく知っている明治神宮や樫原神宮、伊勢神宮のような、**壮大**で地域を代表するような森を作ることが最も望ましいのですが、これほどの規模の森は、国民のいのちと財産を守る立場にある国や県、市町村など地方公共団体、大企業などが手がけるべきです。

農業が中心だった時代から、各集落のまわりに必ずあつた村や地域の守り神の森のような規模の樹林なら、すぐにでも **市民**が主役でつくることができ **ます**。それぞれの集合住宅、企業施設の中や周辺に、その地域に生活し、学び、働く人たちが憩える森をつくりましょう。 **老若男女**、皆が歩いて行くことができる、災害時には逃げ場所となる小、中規模の森です。

ニュータウンをつくる場合、普通まず幼稚園や学校、集会所などハードウェアとしての施設づくりが先行するものです。もちろんこれらの施設はなくてはならないものですが、これからの地域計画、都市計画では、その集団、社会のすべての人が、いざというとき逃げ込める程度の森をつくることが重要です。各地にまだ残されている神社や寺院の境内くらの広さの土地の周りを、できれば幅三〜五メートルの立体的な樹林帯で囲んでください。幅一メートルでも樹林の形成は可能です。

I、各家庭では、隣家や道との境界の垣根を、コンクリートやブロックではなく、できるだけ土地本来の深根性・直根性の常緑の樹林や高生垣にするとよいでしょう。万一の場合には火防木となり、逃げ道が確保できるからです。

高層マンションなどは、まわりは駐車場と芝生だけという場合が多いものです。芝生の上に外来樹種などが支柱で支えられてぼつんぼつんと立っているような、見かけ上の緑化ではなく、マンションの周りに立体的な細長い森をつくるべきです。いざというときは防災機能を、普段は防音、集塵などの環境保全機能を果たし、またコンクリート砂漠の中に住まわされている子供たちやお年寄りがいつでも見たり、触れたり、匂いをかいだりできる身近な森になります。

地震や大火などの災害の際、地域の人たちが避難しやすい公共施設は学校です。学校にはぜひとも森をつくっていただきたい。小中学校は各地区に必ず一校はあるので、その意味からも、とてもよい植樹場所です。生徒や教職員、父兄が一体となって、共に額に汗し木を植えることは、その活動自体が本物の「いのちの教育」となります。

II

私は二十数年前に、ケンチク^③の専門の大学を出た友人に設計をお願いして、小さな家を横浜市内に建てました。昔の日本の農家とまではいきませんが、できるだけ日本風の地味な家にしたかったのですけれど、何しろ年中現地調査などで外に出ているので家人まかせにしまいました。出来上がったのは、屋根を今流行のストレートで葺いた、ややモダンな家でした。ところが入居するとすぐ雨漏りがするのです。設計した友人にそのことを告げると、彼は平然と。雨漏りすれば、漏ったところをふさげばいいだけだ、と言いました。

II 屋根をはがして調べても、雨漏りしている場所がなかなかわかりません。半年以上かかってようやく、二階のアルミサッシの窓枠が不完全で、その隙間から雨水が入っていたことがわかりました。人工物では不具合な箇所だけを修理すればそれでよいのですが、生きた構築材料を使った森づくりでは、こうはいきません。たった一つの要因であっても、見落とされたり、それが少な過ぎたり多すぎたりしても、極端な場合その森全体の破綻につながります。

破綻するときには高木がまず責任を取られ、III 亜高木、低木という順にだめになっていきます。そのなれの果てが芝生のような単層群落です。非常に不安定な植生で、しかも永遠に管理費がかかります。緑の表面積は森の約三〇分の一で、冬、地上部は枯れてしまいます。防音機能、集塵機能、空気の浄化機能、水質保全も不十分で、うわべだけの緑にしかありません。最近、学校の校庭の芝生化を進めている地方もあるようですが、長所と短所をきちんと把握してから、進めてほしいものだと思います。

いのちを守る環境は一〇〇%整っていないければなりません。破壊されたとき、人工の材料なら直せばよいのですが、どんな小さな虫でも、道端の一本の雑草でも、いかなる科学・技術、医学を駆使しても、一度、死んだものを生き返らせることはできません。

(宮脇昭『木を植えよ!』より)

*1 集塵 細かいちりや、ほこりを一カ所に集めること。

*2 破綻 修理しようがないほどになること。行きづまること。

問一 ――部①②③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中 X に入る語句として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 絶対 イ 幻想 ウ 理想 エ 現実

問三 ――部A「市民が主役でつくることができます」とありますが、市民が主役でつくることができる「樹林」として**適切でない**ものを、あとのア～カから二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 集合住宅の一面に作られた公園
イ 壮大で地域を代表するような森
ウ 働く人が休憩するための緑豊かな憩いの場
エ 中規模な森林
オ 常緑の高生垣
カ 大規模な森林

問四 — 部 **B** 「見かけ上の緑化」とありますが、同じ意味の言葉を **Ⅱ** の文章中から、**七字** でぬき出しなさい。

問五 本文中 **べき** と同じ用法の「べき」を使って、短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問六 — 部 **C** 「いのちの教育」とありますが、筆者は「森」や「いのち」をどのようなものだと考えていますか、本文中の言葉を使って、**六十字** 以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

破綻 一度

問七 本文中 **I** **Ⅲ** にあてはまる語句として適切なものとしてそれぞれあとの **A** **オ** から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** だから **I** さらに **ウ** しかし **E** ついで **オ** なぜなら

問八 ――部D「防音機能、集塵機能、空気の浄化機能、水質保全能」とありますが、これらをまとめて筆者は何と述べていますか、Iの文章中から六字でぬき出しなさい。

問九 本文の内容を説明したものととして最も適切なものを、あとのA～Eから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 樹林や森は、常に手を入れ続けなければならないので、個人や市民だけでは決して作り上げることができない。
- イ 森には、災害などが起こったときに逃げ込むための避難場所としての役割が備わっている。
- ウ 人工物は、どれだけ設計を丁寧にしても故障や欠点があるので、自然のものよりも劣っている。
- エ 芝生は、最初だけ管理が必要で、その後は放っておいても環境に問題がないのですぐれている。

三

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

おれが奄美あまみにいたのは四日どころか半日足らずだった。卓也たくやと二人でバスに乗り、龍郷町たつこうちょうの役場から自転車の二人乗りで久場くばの家をめざしていると、前から石井いししいさんが運転するワゴン車があらわれた。

「陽介ようすけ、このまま空港へ送るから、東京に行くんだ。詳しいくわことは車のなかで話す。早くこっちに移れ」
そうして乗り込んだワゴン車の助手席で、おれは母が倒れたと知らされたのだった。

「克ちゃんかつ。五分ほど前に、東京の弁護士から電話があつて、陽介の母親が倒れたとのことでした。信濃町しなのまちの法律事務所で、裁判にむけての打ち合わせをしている最中だったので、すぐに救急車を呼び、現在もよりの病院に搬送中はんそう。とつぜん胸を押さえて苦しみだしたそうですが、それ以上のことはわかりません。万一のことがあつてはいけませんので、大至急、陽介を……」

石井さんからわたされた携帯電話けいたいには恵子おばさんからのメールが映し出されていて、おれはそこまで読んだところで顔を上げた。
「わかったな。このまま空港に送るから、早くシートベルトをしろ」

それから石井さんはドアの外に立つ卓也に言った。
「卓也は家に戻もどってくれ。そんなに遅おそくならないと思うけど、みんなを頼むたの」

「はい」とうなずいて、卓也はおれと目を合わせた。

A 「心配するな。おかあさん、絶対大丈夫だから」

卓也が拳こぶしを突き出して、おれも拳を合わせたが、B 車が走りだすなり、おれは両手で顔をおおった。

「陽介。つらいのはわかるけど、三分Cで気持ちを整えろ。いくつか話しておくことがあるから」
D

石井さんがいつになく厳つしい声で言って、おれは腕時計うでに目をやった。文字盤もじばんの上を動く秒針を追いながら深呼吸をしようとしたが、胸が震ふるえてうまく息が吸えない。

「かあさんごめん、かあさんごめん、かあさんごめん」

頭のなかで三回唱えて、おれはこの間、母について批判めいたことばかり考えていた自分を恥じた。携帯電話や自分の部屋どこか家まで失い、開聖学園から札幌の栄光中に転校したとはいえ、恵子おばさんにごつちり守られて夏の旅行まで満喫しておれに比べ、母はそれこそたったひとり世間に放り出されていたのだ。しかも、おれは父にばかり思いをかけて、母など恵子おばさんの足元にも及ばないと平気で見下していた。

しかし、一番苦しいのは母だった。横領罪で逮捕された父と、鮎鱒舎で暮すおれを気づかないながら、母は二ヶ月以上も病院に泊まりづめで、慣れない介護の仕事をつづけてきたのだ。週に一度の休日だって、銀行にお金を返すための算段や、弁護士のやりとりで神経をすり減らしていたにちがいない。一刻も早く母の元にかけてほしい。おれを見れば母だって元気がわくはずだ。でも、もし間に合わなかったら……。

「陽介、いいか」と石井さんに言われて、おれは我に返った。

「はい。大丈夫です」

石井さんによると、奄美大島から羽田に直行する飛行機は一日一便しかなく、普通は鹿児島空港に出て、そこから羽田行きに乗り継ぐ。予約はもうすませてあり、午後三時二十分発の便で鹿児島にむかうことになっている。そう言われて、あらためて腕時計を見ると、午後二時をまわったところだった。

「だから急いでるってわけさ。でも間に合うよ。ほら、その先の交叉点に案内板が出てるだろ」

太平洋に突きあたるかっこうの丁字路には、左向きの矢印の下に「奄美空港 18 km」と標示が出ていて、まだ遠いじゃないかと、おれは気が気でなかった。そこで携帯電話が鳴りだし、ハンドルを切っていた石井さんがおれに出てくれというようにポケットの電話を差し出した。

「もしもし、克ちゃん」と、恵子おばさんの声が聞こえて、おれは胸がつぶれそうになった。

「あの、おれです」

「克ちゃんは？」

「今、運転中なんです」

母が無事なら、おれに言えばすむ。それなのに、おばさんが口ごもっているという③ことは……。

「いいかい陽介、よく聞くんだよ」

一呼吸おいて恵子おばさんが話したそうとしたとき、石井さんがおれの手から携帯電話を奪い取った。カーブを曲がり終えた車は海岸沿いの長い直線

道路に出ている、石井さんは「うん、うん」とうなずいてから、「わかった。このまま東京にむかわせればいいんだな」と言って電話を切った。

「よかったな。おかあさん、無事だった」

前をむいたまま早口で話す石井さんのことばを耳に入れながら、おれは窓の外に広がる青い海と青い空に、感謝を込めて頭をたれた。

(佐川光晴「おれのおばさん」より)

問一 ——部A「心配するな。おかあさん、絶対大丈夫だから」とありますが、ここで使われている表現技法として最も適切なものをあとのA、Eから一つ選んで、記号で答えなさい。

ら一つ選んで、記号で答えなさい。

A 体言止め

I 反復法

ウ 倒置法
とうち

E 擬人法
ぎじん

問二 ——部B「車が走りだすなり、おれは両手で顔をおおった」とありますが、なぜ両手で顔をおおったのか、「おれ」の心情に触れながら**四十字**

以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

卓也 不安

問三 — 部C「三分」とありますが、次の文は、三分間で「陽介」が考えたことを説明したものです。①②③にあてはまる言葉を指定された語数に従って、本文中からぬき出しなさい。

陽介は、①二十二字を恥じて、②十一字と気づき、③十五字と考えた。

問四 — 部D「いくつか話しておくことがあるから」とありますが、石井さんが伝えた内容が書かれているひと続きの二文をぬき出して、初めと終わりの五字を答えなさい。(句読点は字数にふくめません)

問五 — 部①②③の表現や語句の本文中における意味として適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① 足元に及ばない

ア どうしようもない イ くらべものにならない ウ 言葉にならない エ 仲良くできない

② 気が気でなかった

ア うわの空になった イ イヤな気分になった ウ あきれてしまった エ 落ち着かなかった

③ 口ごもって

ア 黙って イ 思いつくまま言って ウ はっきり言わないで エ はっきり言って

問六 ——部E「恵子おばさんの声が聞こえて、おれは胸がつぶれそうになった」とありますがそれはなぜですか、その説明として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア おばさんに母のことを聞かれるのが怖いから。
- イ おばさんの声を聞き泣き出しそうになったから。
- ウ おばさんになさけないとしかられると思ったから。
- エ おばさんのことを心から尊敬しているから。

問七 ——部F「青い海と青い空に感謝をこめて頭をたれた」のはなぜですか、その説明として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 母が無事だと知り安心して、一人で文句も言わずにおとなしく待っている卓也に対して、お礼を言いたい気持ち。
- イ 母が無事だと知り安心して、何かに対して感謝の気持ちを抱き、表現せずにはいられない気持ち。
- ウ 母が無事だと知り安心して、よくしてくれた石井さんに感謝をしたいが恥ずかしくてごまかす気持ち。
- エ 母が無事だと知り安心して、海の方の母を助けてくれた医者に対してありがたく思う気持ち。

問八 本文の内容や、表現について説明したものととして最も適切なものをあとの**アイエ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 携帯電話でのやりとりの中で、陽介は安心感を覚え、最後まで大人達を信頼しながら落ち着いて行動することができた。
- イ** それぞれの登場人物の心情が細かく描写されており、それぞれの登場人物の揺れ動く内面がはっきりと読み取れる。
- ウ** 母親が倒れたことで取り乱し落ち着かない様子の陽介と、冷静に素早く対応を進める大人たちが対照的に描かれている。
- エ** 奄美大島の天気に変化していく様子が、陽介の心情変化と重なることで読み手に陽介の心情が伝わりやすくなっている。

問題はこれで終わります。